

## 台風（たいふう）シーズンには要注意（ようちゅうい）！！

河川（かせん）の流域（りゅういき）に大雨（おおあめ）が降（ふ）ったり、山（やま）の積雪（せきせつ）が春（はる）に融（と）けたりすると河川（かせん）に多量（たきりょう）の水（みず）が流（なが）れていきます。

このため、堤防（ていぼう）をこえたりした水（みず）が被害（ひがい）を与（あた）えます。

### 雨（あめ）の量（りょう）のめやす

|                                  |                                                                                                                                            |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| やや強（つよ）い雨（あめ）<br>10～20ミリ         | 雨（あめ）の音（おと）で会話（かいわ）がしにくい<br>一面（いちめん）に水（みず）たまりができる<br>この程度（ていど）の雨（あめ）が長（なが）く続（つづ）く時（とき）は警戒（けいかい）が必要（ひつよう）                                   |
| 強（つよ）い雨（あめ）<br>20～30ミリ           | 土砂降（どしゃぶ）りで側溝（そっこう）があふれる<br>小（ちい）さな川（かわ）の氾濫（はんらん）、小規模（しょうきぼ）の崖崩（がけくず）れが始（はじ）まる                                                             |
| 激（はげ）しい雨（あめ）<br>30～50ミリ          | バケツをひっくりかえたように雨（あめ）が降（ふ）る<br>道路（どうろ）が川（かわ）のようになる<br>崖崩（がけくず）れが起（お）きやすくなる<br>避難（ひなん）の準備（じゅんび）をする                                            |
| 非常（ひじょう）に激（はげ）しい雨（あめ）<br>50～80ミリ | 滝（たき）のように雨（あめ）がゴーゴーと降（ふ）り続（つづ）く<br>マンホールから水（みず）が噴出（ふんしゅつ）し、地下室（ちかしつ）、地下街（ちかがい）に雨水（あまみず）が侵入（しんにゅう）、多（おお）くの洪水（こうずい）・土砂災害（どしゃさいがい）が発生（はっせい）する |
| 猛烈（もうれつ）な雨（あめ）<br>80ミリ以上（いじょう）   | 息苦（いきぐる）しくなるような圧迫感（あっぱっくかん）があり、恐怖（きょうふ）を感（かん）じる<br>大規模（だいきぼ）な災害（さいがい）が発生（はっせい）する可能性（かのうせい）が高（たか）く、嚴重（げんじゅう）な警戒（けいかい）が必要（ひつよう）              |

## 台風（たいふう）のコースで影響（えいきょう）が変（か）わります

台風（たいふう）の予想進路（よそうしんろ）が発表（はっぴょう）されたら、自分（じぶん）の住（す）んでいる地域（ちいき）のどちら側（がわ）を通（とお）るか確認（かくにん）しましょう。

台風（たいふう）の進路（しんろ）と風向（かざむ）き

## 避難（ひなん）のポイント



洪水（こうずい）の中（なか）を避難（ひなん）する場合（ばあい）、とくに足下（あしもと）には十分（じゅうぶん）に注意（ちゅうい）を払（はら）いましょう。

とつぜん深（ふか）くなっても見（み）えない場合（ばあい）があるので、お父（とう）さんやお母（かあ）さんに手（て）を引（ひ）いてもらいましょう。



## 避難（ひなん）のときのポイント

- 素足（すあし）・長靴（ながぐつ）はダメ！ ひもでしめられる運動靴（うんどうぐつ）が歩（ある）きやすい
- 家族（かぞく）ではぐれないようにお互（たが）いの身体（からだ）をロープで結（むす）ぼう
- 歩（ある）ける深（ふか）さは大人（おとな）の男（おとこ）の人（ひと）で約（やく）70cm、大人（おとな）の女（おんな）の人（ひと）で約（やく）60cmがめやすです。腰（こし）まで水深（すいしん）があるようなら無理（むり）に避難（ひなん）せず高（たか）い所（ところ）で助（たすけ）けを待（ま）ちましょう
- 水面下（すいめんか）にはどんな危険（きけん）があるかわかりません。長（なが）い棒（ぼう）を杖（つえ）がわりにして安全確保（あんぜんかくほ）をしながら歩（ある）く
- 浮（う）き輪（わ）につかまって歩（ある）くのも安全（あんぜん）に歩（ある）く方法（ほうほう）！

雨（あめ）が降（ふ）り続（つづ）いた場合（ばあい）、土砂災害（どしゃさいがい）に要注意（ようちゅうい）！！

雨（あめ）が降（ふ）り続（つづ）いたときは、地盤（じばん）がゆるんだりして土砂災害（どしゃさいがい）の発生（はっせい）する可能性（かのうせい）が高（たか）くなります。

土砂災害（どしゃさいがい）には主（おも）に、がけ崩（くず）れ災害（さいがい）、地（じ）すべり災害（さいがい）、土石流災害（どせきりゅうさいがい）があります。

### がけ崩（くず）れてなに？

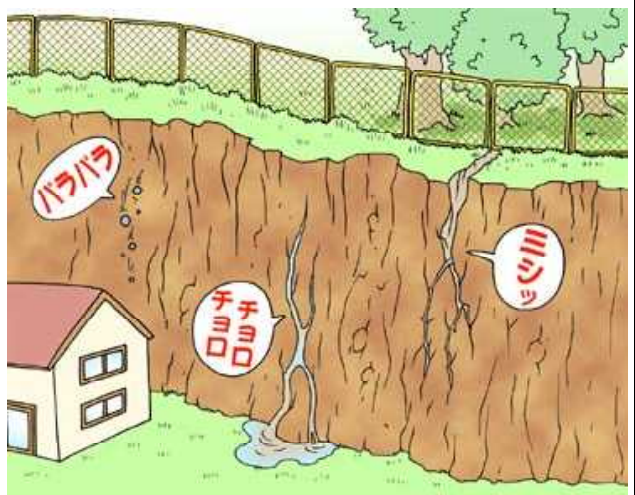
豪雨（ごうう）、または地震（じしん）により地盤（じばん）がゆるみ、突然崩（とつぜんくず）れ落（お）ちる現象（げんしょう）を「がけ崩（くず）れ」と言（い）います。

崩（くず）れた土砂（どしゃ）は斜面（しゃめん）の高（たか）さの2～3倍（ばい）にあたる距離（きょり）まで届（とど）くこともあります。

がけ崩（くず）れの危険（きけん）のある場所（ばしょ）は、全国（ぜんこく）で86,651箇所（かしょ）（平成（へいせい）9年調（ねんしら）べ）と、他（ほか）の土砂災害危険箇所（どしゃさいがいきけんかしょ）の数（かず）に比（くら）べて多（おお）いのが特徴（とくちょう）です。

### がけ崩（くず）れの前兆現象（ぜんちょうげんしょう）

- がけから小石（こいし）がパラパラと落（お）ちてくるようになったとき
- がけから水（みず）が湧（わ）き出（で）てきたとき
- がけに割（わ）れ目（め）ができたとき



## 地（じ）すべりってなに？

地（じ）すべりとは、緩（ゆる）やかな斜面（しゃめん）の場所（ばしょ）で、粘土（ねんど）のような滑（すべ）りやすい地層（ちそう）に雨水（あまみず）などがしみ込（こ）み、その影響（えいきょう）で地面（じめん）が動（うご）き出（だ）す現象（げんしょう）です。

広（ひろ）い範囲（はんい）にわたって起（お）こるのが特徴（とくちょう）で、家（いえ）や田畑（たはた）、道路（どうろ）などの交通網（こうつうもう）などが一度（いちど）に被害（ひがい）を受（う）けてしまいます。

地（じ）すべりは、1日（いちにち）に数（すう）ミリ程度（ていど）と目（め）に見（み）えないほどの動（うご）き方（かた）ですが、突然（とつぜん）ズルズルと数（すう）メートルも動（うご）くことがあります。

また、地（じ）すべりによってせき止（と）められた川（かわ）の水（みず）がいきなり流（なが）れだすと、下流（かりゅう）に大災害（だいさいがい）をもたらすこともあります。

### 地（じ）すべりの前兆現象（ぜんちょうげんしょう）

- ・井戸（いど）の水（みず）がにごった時（とき）
- ・地面（じめん）がひび割（わ）れたり、一部（いちぶ）が陥没（かんぼつ）あるいは隆起（りゅうき）した時（とき）
- ・池（いけ）や沼（ぬま）の水（みず）の量（りょう）が急激（きゅうげき）に変化（へんか）した時（とき）



## 土石流（どせきりゅう）ってなに？

谷（たに）や山（やま）の斜面（しゃめん）からくずれた土（つち）や石（いし）などが、梅雨（つゆ）の長雨（ながあめ）や台風（たいふう）の大雨（おおあめ）などによる水（みず）と一緒に（いっしょ）になって、いっきに流（なが）れ出（で）てくる現象（げんしょう）が土石流（どせきりゅう）です。

「土石流災害（どせきりゅうさいがい）」は、流（なが）れの急（きゅう）な川（かわ）があるところや扇状地（せんじょうち）で起（お）こることが多（おお）く、速（はや）いスピードと強（つよ）い力（ちから）で被害（ひがい）をもたらします。

### 土石流（どせきりゅう）の前兆現象（ぜんちょうげんしょう）

- 「山鳴（やまな）り」といって、山全体（やまぜんたい）がうなるような音（おと）がする時（とき）



- 川（かわ）の流（なが）れが濁（にご）ったり、流木（りゅうぼく）が混（ま）じっている時（とき）

- 雨（あめ）が降（ふ）り続（つづ）いているのに、川（かわ）の水（みず）が減（へ）っている時（とき）